

地域での取り組み

子どもたちの安全を守るためには、学校や保護者など当事者だけでは、万全の対策をとることはできません。

地域の皆さんの協力を得ながら取り組みを進めることが重要になってきており、市内でもその活動は広がりを見せています。

子ども110番の設置

子どもたちが不審者などに会った際、駆け込むことができるように、各地域の家庭や事業所のご協力をいただき「子ども110番の家」を設けています。



▶「おおい会」では青色回転灯をつけた自動車地域巡回。

また、建設業協会笠岡支部や市内の郵便局のご協力により、市内全域の工事現場や事業所、局舎、車両に「子ども110番」の表示をして対応できるようにするなど、積極的な取り組みがなされてます。

地域による安全パトロール

昨年七月、笠岡小学校区のPTAが中心となって「ひまわり隊」が結成されました。

地域の人が目印にひまわりのマークが付いた黄色い帽子をかぶり、毎日の児童の登下校に立ち番や付き添いなどを実施。事件・事故を未然に防止するために活躍しています。

また、大井地区のボランティアグループ「おおい会」は、平成十六年の設立以来、自動車での地域巡回を続けています。昨年からは警察の認可を受けて、青色回転灯をつけての安全パトロールで、子どもたちの登下校の安全はもちろん、地域全体の犯罪防止に役立つ活動に取り組み、大きな成果を上げています。

こうした活動で、地域の中に子どもたちを見守る目を増やすことは、登下校する子どもたちに安心感を与えるとともに、子どもたちが巻き込まれる犯罪を抑止する力にもなるのです。



▲「ひまわり隊」は登下校中の子どもたちに付き添い。

子どもを守るために私たちができること



笠岡警察署
生活安全課
松本福子さん

子どもたちを危険から守るためには、保護者や地域が気持ちをひとつにすることが重要です。

保護者の皆さんは、日頃から家庭の中で身の回りの危険と、その対処法について教えてください。そのためには、子どもと通学路を歩くこと。危険な箇所や避難場所を認識させることで、回避能力を身につけさせましょう。そして、子どもたちのためにボランティアで活動してくださる地域の人に感謝の気持ちを忘れないでください。

地域の皆さんにお願いすることは、普段お家にいるならば、子どもの下校時間となる3時から5時の間に家の外に出て、近所の人とお話をしたり、散歩したりして、子どもに目が届くような場所にいてあげてください。一人で遊んでいる子どもを見かけたら、「みんなと一緒に遊ぼうね」「今日はもうお家に帰ろうか」と一声かけてあげてください。

警察署としても、学校や地域パトロール隊、地域の皆さんと連携しながら、迅速な対応をしていきますので、子どもたちを温かく見守ってください。

数の学級、学年や全校による集団での登下校を行い、通学の中で子どもたちが一人になる時間帯が、可能な限り少なくなるように工夫しています。子どもたちの安全を守るためには、通学路の危険箇所の認識と安全性の向上が必要です。市内の小学校では、教職員や保護者、また、子どもたちが通学路を実際に歩き、防犯の観点から点検して、要注意箇所や緊急時に避難できる場所などを確認しています。



▲通学路の安全点検は小さな危険箇所も見落としません。

多くの人が出入りする場所、緊急時に駆け込める「子ども110番の家」などを記した「安全マップ」を作成し、指導に役立てています。